

シニア期企業労働者の生きがい

佐藤 秀紀*¹ 岡田 邦夫*² 荒尾 孝*³ 西田 美佐*⁴
荒賀 直子*⁶ 杉本 正子*⁷ 加藤 登紀子*⁸ 鶴田 来美*⁹
山本 宣正*¹⁰ 栗田 好治*¹¹ 天神 桂子*¹² 福渡 靖*⁵

I は じ め に

わが国の人口構造の高齢化は、極めて急速に進んでおり、来たる二十一世紀には本格的な高齢化社会が到来すると予測されている¹⁾。この高齢化社会を迎えるにあたり、生きがいを持った健やかで充実した生活を実現していくことが、国民の最大関心事のひとつとなっている。ところが、現代は生きがい喪失の時代と言われ、いかに生活の質、人生の質を高めていくかの具体的方法を追求していくことが重要な課題²⁾となっている。

こうした時代を背景に、中高年者が来るべき定年退職後の職域社会から地域社会へと転換した場合、余生の生きがいをいかに求めていくかが問題となっている³⁾。従来の研究によれば、高齢期に自己存在の意味に関して懐疑的になりがちであることから、高齢者における生きがいについての検討が数多くなされている^{4)~11)}。ところが、職業キャリアから引退する前のシニア期企業労働者に関してはほとんど検討されていない。従って、シニア期企業労働者における生きがいを把握することは、今後の生きがい対策事業を促進する上で極めて重要な課題と言えよう。

そこで本研究は、今後の事業所における生きがい対策事業を効果的で効率的に提供するため

の指針を得ることをねらいとして、50代企業労働者を対象に、生きがいおよびその関連要因について検討することを目的とした。

II 方 法

調査地域は、北海道、関東の2地区とした。北海道地区においてはA企業(A-1, A-2, A-3, A-4, A-5), B信用金庫, C信用金庫, D信用金庫, E信用金庫, F信用金庫, G信用金庫, H信用金庫, I信用金庫, J企業の14事業所を、関東地区においては、K企業, L企業, M企業, N企業, O企業, P企業の6事業所と、総計20事業所を調査対象として選定した。また、対象者は、それぞれの企業の20事業所に勤務する40歳以上の労働者1,488人(男性1,275人、女性213人)とした。

調査方法は、調査票を作成し、各企業および事業所の健康管理担当者を通じ、本人への配布・回収を行った。調査は1997年9月~10月にかけて、自己記入方式により実施した。

調査内容に関しては、人口学的要因(性、年齢)、社会構造的要因(教育歴、配偶者の有無、所得)、健康的要因(健康度自己評価、医療機関への受療状況)とした。生きがいに関しては、生きがいを感じるもの(趣味・スポーツ、趣味・スポーツの仲間とのつながり、友人・知人との

* 1 北海道医療大学医療福祉学科助教授 * 2 大阪ガス株式会社健康管理センター長
* 3 明治生命厚生事業団体力医学研究所長 * 4 順天堂大学医学部公衆衛生学講座助手 * 5 同教授
* 6 順天堂医療短期大学専攻科教授 * 7 東京都立保健科学大学看護学科教授 * 8 産業医科大学産業保健学部教授
* 9 宮崎医科大学附属病院看護部看護婦 * 10 日本健康倶楽部理事 * 11 同健康事業開発部部长 * 12 同部員

つきあい、親密な家族関係、子どもや孫の成長、仕事、職場の仲間とのつながり、地域活動やボランティア、人の世話・奉仕、信仰・信心、健康、家族の健康、ゆっくりと休養、家事、その他)の15項目とした。

解析に当たり、まずすべての調査項目に対し記述統計で検討した。次に、生きがい15項目については、人口学的要因(性、年齢)、社会構造的要因(教育歴、配偶者の有無、所得)、健康的要因(健康度自己評価、医療機関への受療状況)に着目し、 χ^2 検定で検討した。このとき年齢は「40～54歳」「55歳以上」の2カテゴリーに、教育歴については、「中学校卒業」「高等学校卒業」「短期大学・専門学校・四年制大学・大学院」の3カテゴリーに、配偶者の有無については、「有り」「無し」とした。所得は「599万以下」「600～799万」「800万以上」の3カテゴリーとした。健康度自己評価は、「健康ではないと思う」「あまり健康でない」「まあ健康の方だと思う」「非常に健康だと思う」の4カテゴリーに、医療受診の有無については、「有り」「無し」とした。これら調査内

容のうち、健康度自己評価に関しては、芳賀ら¹²⁾の基準に従って測定した。

なお、調査票が回収できた1,107人(74.4%)の中から、50代の1,078人(男性924人、女性154人)の資料を分析した。

Ⅲ 結 果

(1) 個人的属性の分布

集計対象の属性の分布は、表1に示した。性別構成(N=1,078)は、男性が85.7%、女性が14.3%であった。年齢(N=1,078)は、平均が53.94歳、標準偏差が2.67であった。男女別にみるなら、男性(N=924)は、平均が53.98歳、標準偏差が2.69、女性(N=154)は、平均が53.70歳、標準偏差が2.49であった。教育歴(N=1,060)は、「高等学校卒業生」が49.6%と最も多く、次いで「中学校卒業生」が23.8%となっていた。配偶者の有無(N=1,061)に関しては、「有り」が90.5%に対し、「無し」が9.5%であった。所得(N=1,055)は「600～799万円」と回答した者が最も多く28.4%を占めていた。健康度自己評価で測定された健康状態(N=1,069)は、「非常に健康だと思う」が3.7%、「まあ健康の方だと思う」が75.5%、「あまり健康ではない」が15.9%、「健康ではないと思う」が4.9%となっていた。現在の受療の有無(N=1,066)に関しては、「有り」が39.0%に対し、「無し」が61.0%であった。

(2) 生きがいに関する項目の分布

生きがいを感じるものに関して、最も高い内容は、家族の健康(61.6%)で、以下、健康(59.7%)、親密な家族関係(51.9%)、趣味・スポーツ(49.8%)、子どもや孫の成長(45.5%)、友人・知人とのつきあい(40.5%)、仕事(38.1%)、趣味・スポーツの仲間とのつながり(32.4%)、ゆっくりと休養(28.6%)、職場の仲間とのつながり(27.4%)、地域活動やボランティア(8.9%)、人の世話・奉仕(6.4%)、家事(5.7%)、信仰・信心(4.0%)、その他(1.6%)の順となっていた。

表1 集計対象の属性分布

(単位 人、()内%)

属 性		分 布
性 別 (N = 1,078)		
男	性	924 (85.7)
女	性	154 (14.3)
年 齢 (N = 1,078)	平 均 値	53.94歳
平 均	標準 偏差	2.67
教 育 歴 (N = 1,060)	中 学 校	252 (23.8)
中 学 校	高 等 学 校	526 (49.6)
高 等 学 校	短 期 大 学	9 (0.8)
短 期 大 学	専 門 学 校	23 (2.2)
専 門 学 校	四 年 制 大 学	222 (20.9)
四 年 制 大 学	大 学 院	23 (2.2)
大 学 院	其 他	5 (0.5)
配 偶 者 の 有 無 (N = 1,061)	有	960 (90.5)
有	無	101 (9.5)
所 得 (N = 1,055)	399 万 以 下	108 (10.2)
399 万 以 下	400 ～ 599 万	147 (13.9)
400 ～ 599 万	600 ～ 799 万	300 (28.4)
600 ～ 799 万	800 ～ 999 万	250 (23.7)
800 ～ 999 万	1,000 万 以 上	250 (23.7)
1,000 万 以 上	健 康 度 自 己 評 価 (N = 1,069)	
健 康 度 自 己 評 価 (N = 1,069)	非 常 に 健 康 だ と 思 う	40 (3.7)
非 常 に 健 康 だ と 思 う	ま ー 健康の方だと思	807 (75.5)
ま ー 健康の方だと思	あ ま り 健康で	170 (15.9)
あ ま り 健康で	健康ではないと思	52 (4.9)
健康ではないと思	医 療 受 診 の 有 無 (N = 1,066)	
医 療 受 診 の 有 無 (N = 1,066)	有	416 (39.0)
有	無	650 (61.0)

(3) 生きがいに関連する要因

生きがい15項目と、性別との関連性は表2に示した。性別との関連性は15項目すべてにおいて

認められなかった。

生きがい15項目と、年齢階層との関連性は表3に示した。年齢階層との関連性が認められた

項目は、「趣味・スポーツの仲間とのつながり」、「健康」の2項目となっていた。「趣味・スポーツの仲間とのつながり」、「健康」の2項目は、55～59歳の者に生きがいと感じていることが多いことが示された。

生きがい15項目と、教育歴との関連性は表4に示した。教育歴との関連性が認められた項目は、「健康」の1項目となっていた。「健康」は中学校卒業者に生きがいと感じていることが多いことが示された。

生きがい15項目と、配偶者の有無との関連性は表5に示した。配偶者の有無との関連性は15項目すべてにおいて認められなかった。

生きがい15項目と、所得との関連性は表6に示した。所得との関連性が認められた項目は、「健康」の1項目となっていた。「健康」は

表2 生きがいと性別との関連性

(単位 人, ()内%)

内容	男性		女性		χ ² 値
	はい	いいえ	はい	いいえ	
趣味・スポーツ	452 (49.5)	461 (50.5)	78 (51.3)	74 (48.7)	0.171
趣味・スポーツの仲間とのつながり	297 (32.5)	616 (67.5)	48 (31.6)	104 (68.4)	0.054
友人・知人とのつきあい	367 (40.2)	546 (59.8)	64 (42.1)	88 (57.9)	0.197
親密な家族関係	476 (52.1)	437 (47.9)	77 (50.7)	75 (49.3)	0.114
子どもや孫の成長	419 (45.9)	494 (54.1)	66 (43.4)	86 (56.6)	0.321
仕事	348 (38.1)	565 (61.9)	58 (38.2)	94 (61.8)	0.000
職場の仲間とのつながり	247 (27.1)	666 (72.9)	45 (29.6)	107 (70.4)	0.426
地域活動やボランティア	78 (8.5)	835 (91.5)	17 (11.2)	135 (88.8)	1.119
人の世話・奉仕	56 (6.1)	857 (93.9)	12 (7.9)	140 (92.1)	0.676
信仰・信心	35 (3.8)	878 (96.2)	8 (5.3)	144 (94.7)	0.687
健康	537 (58.8)	376 (41.2)	99 (65.1)	53 (34.9)	2.160
家族の健康	558 (61.1)	355 (38.9)	98 (64.5)	54 (35.5)	0.621
ゆっくと休養	253 (27.7)	660 (72.3)	52 (34.2)	100 (65.8)	2.694
家のこと	54 (5.9)	859 (94.1)	7 (4.6)	145 (95.4)	0.414
その他	17 (1.9)	896 (98.1)	— (—)	152 (100.0)	2.876

表3 生きがいと年齢階層との関連性

(単位 人, ()内%)

内容	50～54歳		55～59歳		χ ² 値
	はい	いいえ	はい	いいえ	
趣味・スポーツ	320 (51.0)	308 (49.0)	201 (48.4)	214 (51.6)	0.636
趣味・スポーツの仲間とのつながり	187 (29.8)	441 (70.2)	150 (36.1)	265 (63.9)	4.632*
友人・知人とのつきあい	243 (38.7)	385 (61.3)	176 (42.4)	239 (57.6)	1.435
親密な家族関係	328 (52.2)	300 (47.8)	215 (51.8)	200 (48.2)	0.018
子どもや孫の成長	284 (45.2)	344 (54.8)	190 (45.8)	225 (54.2)	0.032
仕事	239 (38.1)	389 (61.9)	162 (39.0)	253 (61.0)	0.101
職場の仲間とのつながり	163 (26.0)	465 (74.0)	123 (29.6)	292 (70.4)	1.703
地域活動やボランティア	49 (7.8)	579 (92.2)	42 (10.1)	373 (89.9)	1.686
人の世話・奉仕	39 (6.2)	589 (93.8)	26 (6.3)	389 (93.7)	0.001
信仰・信心	25 (4.0)	603 (96.0)	16 (3.9)	399 (96.1)	0.010
健康	358 (57.0)	270 (43.0)	265 (63.9)	150 (36.1)	4.873*
家族の健康	376 (59.9)	252 (40.1)	267 (64.3)	148 (35.7)	2.107
ゆっくと休養	180 (28.7)	448 (71.3)	120 (28.9)	295 (71.1)	0.008
家のこと	29 (4.6)	599 (95.4)	29 (7.0)	386 (93.0)	2.673
その他	12 (1.9)	616 (98.1)	5 (1.2)	410 (98.8)	0.777

表4 生きがいと教育歴との関連性

(単位 人, ()内%)

内容	中学校卒		高等学校卒		それ以上		χ ² 値
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	
趣味・スポーツ	126 (50.4)	124 (49.6)	252 (48.6)	267 (51.4)	143 (52.2)	131 (47.8)	0.974
趣味・スポーツの仲間とのつながり	78 (31.2)	172 (68.8)	166 (32.0)	353 (68.0)	93 (33.9)	181 (66.1)	0.499
友人・知人とのつきあい	95 (38.0)	155 (62.0)	219 (42.2)	300 (57.8)	105 (38.3)	169 (61.7)	1.766
親密な家族関係	129 (51.6)	121 (48.4)	277 (53.4)	242 (46.6)	137 (50.0)	137 (50.0)	0.885
子どもや孫の成長	108 (43.2)	142 (56.8)	232 (44.7)	287 (55.3)	134 (48.7)	140 (51.1)	1.947
仕事	91 (36.4)	159 (63.6)	198 (38.2)	321 (61.8)	112 (40.9)	162 (59.1)	1.145
職場の仲間とのつながり	61 (24.4)	189 (75.6)	145 (27.9)	374 (72.1)	80 (29.2)	194 (70.8)	1.651
地域活動やボランティア	24 (9.6)	226 (90.4)	49 (9.4)	470 (90.6)	18 (6.8)	256 (93.4)	2.174
人の世話・奉仕	17 (6.8)	233 (93.2)	28 (5.4)	491 (94.6)	20 (7.3)	254 (92.7)	1.294
信仰・信心	7 (2.8)	243 (97.2)	26 (5.0)	493 (95.0)	8 (2.9)	266 (97.1)	3.188
健康	173 (69.2)	77 (30.8)	298 (57.4)	221 (42.6)	152 (55.5)	122 (44.5)	12.537**
家族の健康	160 (64.0)	90 (36.0)	323 (62.2)	196 (37.8)	160 (58.4)	114 (41.6)	1.888
ゆっくと休養	81 (32.4)	169 (67.6)	151 (29.1)	368 (70.9)	68 (24.8)	206 (75.2)	3.723
家のこと	6 (2.4)	244 (97.6)	34 (6.6)	483 (93.4)	18 (6.6)	258 (93.4)	6.667
その他	2 (0.8)	248 (99.2)	10 (1.9)	509 (98.1)	5 (1.8)	269 (98.2)	1.424

「599万以下」の者に生きがいを感じていることが多いことが示された。

生きがい15項目と、健康度自己評価との関連

表5 生きがいと配偶者の有無との関連性

(単位 人, ()内%)

内容	配偶者有り		配偶者無し		χ ² 値
	はい	いいえ	はい	いいえ	
趣味・スポーツ	465 (48.9)	485 (51.1)	58 (59.2)	40 (40.8)	3.723
趣味・スポーツの仲間とのつながり	309 (32.5)	641 (67.5)	30 (30.6)	68 (69.4)	0.149
友人・知人とのつきあい	389 (40.9)	561 (59.1)	36 (36.7)	62 (63.3)	0.654
親密な家族関係	490 (51.6)	460 (48.4)	51 (52.0)	47 (48.0)	0.008
子どもや孫の成長	431 (45.4)	519 (54.6)	46 (46.9)	52 (53.1)	0.088
仕事	368 (38.7)	582 (61.3)	34 (34.7)	64 (65.3)	0.614
職場の仲間とのつながり	258 (27.2)	692 (72.8)	28 (28.6)	70 (71.4)	0.089
地域活動やボランティア	90 (9.5)	860 (90.5)	4 (4.1)	94 (95.9)	3.163
人の世話・奉仕	63 (6.6)	887 (93.4)	5 (5.1)	93 (94.9)	0.343
信仰・信心	39 (4.1)	911 (95.9)	3 (3.1)	95 (96.9)	0.252
健康	564 (59.4)	386 (40.6)	63 (64.3)	35 (35.7)	0.894
家族の健康	580 (61.1)	370 (38.9)	67 (68.4)	31 (31.6)	2.012
ゆっくりと休養	270 (28.4)	680 (71.6)	28 (28.6)	70 (71.4)	0.001
家	58 (6.1)	892 (93.9)	3 (3.1)	95 (96.9)	1.502
その他	16 (1.7)	934 (98.3)	1 (1.0)	97 (99.0)	0.245

性は表7に示した。健康度自己評価との関連性が認められた項目は、「親密な家族関係」、「健康」

の2項目となっていた。「親密な家族関係」、「健康」の2項目は、健康でないと回答した者に生きがいを感じていることが多いことが示された。

生きがい15項目と、医療機関への受療状況との関連性は表8に示した。医療機関への受療状況との関連性が認められた項目は、3項目となっていた。「地域活動やボランティア」、「人の世話・奉仕」、「ゆっくりと休養」の3項目は、医療機関

表6 生きがいと収入との関連性

(単位 人, ()内%)

内容	599万円以下		600～799万円		800万円以上		χ ² 値
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	
趣味・スポーツ	125 (50.4)	123 (49.6)	144 (48.0)	156 (52.0)	247 (50.0)	247 (50.0)	0.400
趣味・スポーツの仲間とのつながり	85 (34.3)	163 (65.7)	97 (32.3)	203 (67.7)	154 (31.2)	340 (68.8)	0.728
友人・知人とのつきあい	97 (39.1)	151 (60.9)	121 (40.3)	179 (59.7)	203 (41.1)	291 (58.9)	0.270
親密な家族関係	125 (50.4)	123 (49.6)	161 (53.7)	139 (46.3)	252 (51.0)	242 (49.0)	0.723
子どもや孫の成長	115 (46.4)	133 (53.6)	136 (45.3)	164 (54.7)	226 (45.7)	268 (54.3)	0.059
仕事	85 (34.3)	163 (65.7)	108 (36.0)	192 (64.0)	203 (41.1)	291 (58.9)	3.976
職場の仲間とのつながり	61 (24.6)	187 (75.4)	88 (29.3)	212 (70.7)	134 (27.1)	360 (72.9)	1.540
地域活動やボランティア	25 (10.1)	227 (89.9)	34 (11.3)	262 (88.7)	34 (6.9)	460 (93.1)	7.756
人の世話・奉仕	14 (5.6)	234 (94.4)	22 (7.3)	278 (92.7)	32 (6.5)	462 (93.5)	0.638
信仰・信心	8 (3.2)	240 (96.8)	15 (5.0)	285 (95.0)	19 (3.8)	475 (96.2)	1.188
健康	164 (66.1)	84 (33.9)	180 (60.0)	120 (40.0)	279 (56.5)	215 (43.5)	6.405*
家族の健康	164 (66.1)	84 (33.9)	183 (61.0)	117 (39.0)	297 (60.1)	197 (39.9)	2.640
ゆっくりと休養	77 (31.0)	171 (69.0)	83 (27.7)	217 (72.3)	139 (28.1)	355 (71.9)	0.901
家	9 (3.6)	239 (96.4)	16 (5.3)	284 (94.7)	33 (6.7)	461 (93.3)	2.968
その他	1 (0.4)	247 (99.6)	7 (2.3)	293 (97.7)	9 (1.8)	485 (98.2)	3.364

表7 生きがいと健康度自己評価との関連性

(単位 人, ()内%)

内容	健康でない		あまり健康でない		まあ健康		非常に健康		χ ² 値
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	
趣味・スポーツ	27 (51.9)	25 (48.1)	96 (56.8)	73 (43.2)	385 (48.4)	410 (51.6)	17 (42.5)	23 (57.5)	4.859
趣味・スポーツの仲間とのつながり	15 (28.8)	37 (71.2)	54 (32.0)	115 (68.0)	258 (32.5)	537 (67.5)	16 (40.0)	24 (60.0)	1.366
友人・知人とのつきあい	23 (44.2)	29 (55.8)	68 (40.2)	101 (59.8)	318 (40.0)	477 (60.0)	18 (45.0)	22 (55.0)	0.722
親密な家族関係	37 (71.2)	15 (28.8)	88 (52.1)	81 (47.9)	402 (50.6)	393 (49.4)	21 (52.5)	19 (47.5)	8.296*
子どもや孫の成長	26 (50.0)	26 (50.0)	70 (41.4)	99 (58.6)	369 (46.4)	426 (53.6)	16 (40.0)	24 (60.0)	2.314
仕事	20 (38.5)	32 (61.5)	63 (37.3)	106 (62.7)	305 (38.4)	490 (61.6)	15 (37.5)	25 (62.5)	0.079
職場の仲間とのつながり	15 (28.8)	37 (71.2)	47 (27.8)	122 (72.2)	220 (27.7)	575 (72.3)	10 (25.0)	30 (75.0)	0.180
地域活動やボランティア	4 (7.7)	48 (92.3)	19 (11.2)	150 (88.8)	69 (8.7)	726 (91.3)	2 (5.0)	38 (95.0)	2.035
人の世話・奉仕	5 (9.6)	47 (90.4)	11 (6.5)	158 (93.5)	51 (6.4)	744 (93.6)	1 (2.5)	39 (97.5)	1.903
信仰・信心	1 (1.9)	51 (98.1)	10 (5.9)	159 (94.1)	28 (3.5)	767 (96.5)	2 (5.0)	38 (95.0)	2.820
健康	38 (73.1)	14 (26.9)	111 (65.7)	58 (34.3)	460 (57.9)	335 (42.1)	21 (52.5)	19 (47.5)	8.355*
家族の健康	39 (75.0)	13 (25.0)	106 (62.7)	63 (37.3)	481 (60.5)	314 (39.5)	23 (57.5)	17 (42.5)	4.710
ゆっくりと休養	17 (32.7)	35 (67.3)	48 (28.4)	121 (71.6)	223 (28.1)	572 (71.9)	14 (35.0)	26 (65.0)	1.350
家	6 (11.5)	46 (88.5)	10 (5.9)	159 (94.1)	44 (5.5)	751 (94.5)	1 (2.5)	39 (97.5)	4.052
その他	1 (1.9)	51 (98.1)	4 (2.4)	165 (97.6)	12 (1.5)	783 (98.5)	— (—)	40 (100.0)	1.349

に受診している者に生きがいを感じていることが多いことが示された。

(単位 人、()内%)

表8 生きがいと現在の受療状況の有無との関連性

内容	受療有り		受療無し		x ² 値
	はい	いいえ	はい	いいえ	
趣味・スポーツ	206 (50.0)	206 (50.0)	317 (49.5)	324 (50.5)	0.030
趣味・スポーツの仲間とのつながり	144 (35.0)	268 (65.0)	197 (30.7)	444 (69.3)	2.038
友人・知人とのつきあい	167 (40.5)	245 (59.5)	261 (40.7)	380 (59.3)	0.004
親密な家族関係	224 (54.4)	188 (45.6)	324 (50.5)	317 (49.5)	1.469
子どもや孫の成長	191 (46.4)	221 (53.6)	289 (45.1)	352 (54.9)	0.164
仕事	156 (37.9)	256 (62.1)	244 (38.1)	397 (61.9)	0.004
職場の仲間とのつながり	111 (26.9)	301 (73.1)	180 (28.1)	461 (71.9)	0.163
地域活動やボランティア	48 (11.7)	364 (88.3)	46 (7.2)	595 (92.8)	6.175*
人の世話・奉仕	35 (8.5)	377 (91.5)	33 (5.1)	608 (94.9)	4.651*
信仰・信心	21 (5.1)	391 (94.9)	22 (3.4)	619 (96.6)	1.775
健康	261 (63.3)	151 (36.7)	369 (57.6)	272 (42.2)	3.490
家族の健康	263 (63.8)	149 (36.2)	388 (60.5)	253 (39.5)	1.160
ゆっくりと休養	134 (32.5)	278 (67.5)	167 (26.1)	474 (73.9)	5.145*
家事	24 (5.8)	388 (94.2)	37 (5.8)	604 (94.2)	0.001
その他の他	9 (2.2)	403 (97.8)	8 (1.2)	633 (98.8)	1.345

Ⅳ 考 察

(1) 生きがいに関する項目

生きがいを感じるものに関しては、最も高い内容は、家族の健康で、以下、健康、親密な家族関係、趣味・スポーツ、子どもや孫の成長、友人・知人とのつきあい、仕事、趣味・スポーツの仲間

間とのつながり、ゆっくりと休養、職場の仲間とのつながり、地域活動やボランティア、人の世話・奉仕、家事、信仰・信心、その他の順となっていた。

その内容としては、各人の生活の多様性と性格に合った多様な選択がされており、「趣味・娯楽」「家族交流」「友人交流」「社会参加」と、かなり包括的な内容となっていた。生きがいとして多かったのは、家族の健康や自身の健康であり、生の喜びを味わうことによる生きがい感である。このように、生きがいは健康とわがちがたく結びついていることが示された。この生の喜びには、友人・知人とのつきあい、趣味・スポーツの仲間とのつながり等の交流も相当するものと考えられる。次いで、親密な家族関係や仕事、子どもや孫の成長を生きがい対象とする者で、ほぼ半数であった。親密な家族関係は、平和で親和的な家庭生活を築くことに生きがいを求めていることの表れであろう。仕事を生きがいの対象とする者も4割弱認められた。ただし、働きがいだけに凝り固まった生きがいには問題があろう。また、子どもや孫の成長が生きがいの対象となっている者も多い。子どもの独立によって生きがいを喪失することのないように、他にも生きがいを見いだすことが必要となろう。また、老後生活への充実対策とも考えられ、趣味・スポーツ、地域活動やボランティア、人の世話・奉仕の活動が挙げられている。この

ような内容は、余暇のうちに、その生きがいを追求している¹³⁾¹⁴⁾ものと考えられる。これらは、平均寿命が延び、職業から引退した後の期間が長くなるにつれ、重要視されるようになってきているものと想定される。その意味では、壮年期から余暇能力・資質を培っておくことが、高齢期での充実した豊かな余暇活動のために重要であることが示唆される。ただし、地域活動やボランティア、人の世話・奉仕活動を行っている者の比率は、かなり低いものとなっている。時間的条件などが整えばこれらの活動が大きく伸びる可能性がある。ボランティアや人の世話・奉仕活動は、その活動を通して、周囲との交際や、役割の遂行に伴う社会的地位の獲得などの効果が得られるものである。このような活動の主たる動機づけの一つは、自己実現への欲求¹³⁾¹⁴⁾となっている。ボランティアや人の世話・奉仕活動は、生活満足度の高いものとなっているだけに、退職後に起こりがちな孤独を解消させる¹⁵⁾ことにもなろう。また、信仰・信心に生きがいを感じる者は数%程度であった。信仰・信心もまた人間関係の延長線上にあるものであり、仲間うちのコミュニケーションの機会がそこでは得られている¹⁶⁾。

これらのことは、いわば各人の生活史のなかからにじみ出る個性との対応で、生きがいを感じとっているものと思われる。従って、生きがいは、個人の価値観に根ざし、個人の生き方に

関わる極めて主観的なものであるために、何を
もって生きがいとするかは、個人の考え方に基
づくものであろう。それだけに、仕事にも、家
庭生活にも、また社会生活にも、多元的に生き
がいを成立させるような生き方が求められよう。

(2) 生きがいに関連する要因

シニア期企業労働者の生きがいは、年齢階層、
教育歴、所得、健康度自己評価、医療機関への
受療状況と関連していることが明らかにされた。
年齢階層との関連性が認められた項目は、「趣
味・スポーツの仲間とのつながり」、「健康」の
2項目となっていた。「趣味・スポーツの仲間と
のつながり」、「健康」の2項目は、55～59歳
の者に生きがいと感じていることが多いことが示
された。年配者は、巧みなネットワークにおいて
仲間とのつながりを生きがいに導いていること
が報告されている¹⁷⁾。とかく社会関係が縮小
しがちな状況から、社会的なつながりを広める
努力が、生きがいの一つとなっていく¹⁸⁾¹⁹⁾もの
と思われる。また、55～59歳の者は、健康に重
大な関心を払う時期であり、年配者の場合は生
きがい健康に影響されることが明らかにされた。
年齢が高くなるほど、自身の健康こそが切
実な関心事となるものと推察される。

教育歴および所得では関連性が認められた項
目は、「健康」の1項目となっていた。「健康」
は中学校卒業者に生きがいと感じていることが
多いことが示された。関心をもつことの領域が
狭かったり、新しいことに接する経済的余裕が
ない生活が続くと、自身の健康に関心が集中し
やすいものと考えられる。

健康度自己評価との関連性が認められた項目
は、「親密な家族関係」、「健康」の2項目とな
っていた。「親密な家族関係」、「健康」の2項目
は、健康度自己評価の低い者に生きがいと感じ
ていることが多いことが示された。健康感のす
ぐれない者は、家庭外活動を通じて他の者と接
する機会も減じ、むしろ親密な家族関係に関心
を求めていることが推察される。また、いま感
じている身体の不調に関心が集まり、不安に思
うことから、健康こそが生きがいと感じられる

のであろう。

医療機関への受療状況との関連性が認められ
た項目は、3項目となっていた。「地域活動やボ
ランティア」、「人の世話・奉仕」、「ゆっくりと
休養」の3項目は、医療機関に受診している者
に生きがいと感じていることが多いことが示さ
れた。医療機関に受診している者は、身体的活
動を要する内容よりも、むしろ健康状態の悪い
自身を受容することにより、他人にサポートす
ることによって、心の安らぎと何らかの役に立
っていることへの喜びを感じることができるの
であらう。

V ま と め

以上まとめると、シニア期企業労働者の生き
がいは、年齢階層、教育歴、所得、健康度自己
評価、医療機関への受療状況といった諸特性と
関連していることが明らかにされた。今後、人
口の高齢化がさらに進むにつれて、高齢者の生
活はますます活発化し、多様化していくなかで、
高齢期における生活のあり方が問われること
になる。本研究で得られた結果は、これからの企
業労働者の退職後の生活の質を高め、生きがい
のある充実した豊かな老後を形成するためのひ
とつの示唆となろう。

今後、企業においては、現役勤労世代からの
余暇享受能力、余暇活動能力の形成を目的とし
て、生涯学習支援、通信教育支援、社内サークル
活動支援、ボランティア休暇制度支援、社会
活動参加への支援等、生きがいづくりへの支援
体制を積極的に取り入れる必要がある。また、
退職後の長期にわたる老後生活をより豊かなも
のにしていくために、在職中の早い段階から、
生きがいに関する退職準備プログラムの指導を
さらに充実していくことが必要と考えられる。

本研究は平成9年度厚生省老人保健福祉局老
人保健健康増進等事業研究『高齢者の健康管理
と生き甲斐のあり方に関する調査研究』の一環
として行われた。調査に御協力下さった各企業
および事業所の健康管理担当者はじめ関係者の

方々に厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 高橋重郷, 金子隆一, 石川晃, 他: 日本の将来推計人口—平成8(1996)～62(2050)年. 人口問題研究1997; 53(1): 64-98.
- 2) 小林司: 『「生きがい」とは何か』. 東京, 日本放送出版会; 1989.
- 3) 藤崎宏子, 西三郎: シニア期の夫婦関係と生きがいのパラドックス. サラリーマンの生きがいに関する調査, シニアプラン開発機構; 1993: 179-233.
- 4) 兵庫県長寿社会研究所編: 高齢者の社会参加と「生きがい」意識に関する調査研究報告書. 財団法人兵庫県長寿社会研究機構; 1992.
- 5) 東京都生活文化局編: 高齢者の生きがいと社会参加に関する調査研究報告書. 東京都生活文化局; 1986.
- 6) 杉山善朗, 竹川忠男, 中村浩, 他: 老人の「生きがい」意識の測定尺度としての日本版PGMの作成(1)—尺度の信頼性および因子の妥当性の検討—. 老年社会科学1981; 3: 57-69.
- 7) 杉山善朗, 竹川忠男, 中村浩, 他: 老人の「生きがい」意識の測定尺度としての日本版PGMの作成(2)—実際の妥当性の検討—. 老年社会科学1981; 3: 70-82.
- 8) 杉山善朗, 竹川忠男, 中村浩, 他: 高齢就労者の「生きがい」意識に関する研究. 社会老年学1986; 23: 44-51.
- 9) 杉山善朗, 中村浩, 齊藤和雄, 他: 高齢者のスポーツ活動と「生きがい」意識との関連. 老年社会科学1986; 8: 161-176.
- 10) 中村浩, 杉山善朗, 竹川忠男, 他: 有病高齢者と健康高齢者の「生きがい」意識の比較研究. 高齢者問題研究1987; 3: 25-28.
- 11) 中村浩, 杉山善朗, 竹川忠男, 他: 有病高齢者の病態変動にともなう「生きがい」意識の動き. 高齢者問題研究1988; 4: 19-27.
- 12) 芳賀博: 健康度の測定. 老人保健活動の展開, 東京, 医学書院; 1992: 74-95.
- 13) Kabanoff, B.: Work and nonwork: a review of models, methods and findings. Psychological Bulletin 1980; 88: 60-77.
- 14) Parker, S.: Leisure and Work. London, Allen & Unwin 1983.
- 15) 有吉広介: 高齢者と余暇生活. ライフスタイルと社会構造, 東京, 日本評論社; 1996: 212-217.
- 16) Paloutzian, RF. and Ellison, CW.: Loneliness, spiritual well-being and the quality of life. In L. A. Peplau and D. Perlman(eds), Loneliness, New York, Wiley 1982.
- 17) Argyle, M. and Henderson, M.: The rules of friendship. Journal of Social and Personal Relationships 1984; 1: 211-237.
- 18) Reich, A. and Zeutra, J.: Life events and personal causation. Journal of Personality and Social Psychology 1981; 41: 1002-1012.
- 19) 堤マサエ: 同別居と家族・社会関係. 高齢社会への生活変容, 東京, 出光書店; 1990: 89-112.